

(4) 花 き

輪 ギ ク

<半促成栽培、電照抑制栽培>

対象地域 (土壌)	定植本数	目標収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他	備 考
	本/10a	本/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10		kg/10a	
全域 (砂壤土～壤土)	10,000	30,000	基肥：定植前	12～13	16～18	14～16	(稲わら堆肥2,000) 基準：2 上限：3	苦土石灰 100	
	～ 12,000		追肥：伸長期	2	2	2			
	合 計			14～15	18～20	16～18			
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 土壌pHは6.0～6.5を目標に、定植3～4週間前に堆肥等土壌改良資材を施し耕耘する。			堆肥は稲わら又はもみがらを原材料にした完熟堆肥を用いる。						
イ 追肥は新芽が10～15cm伸びた頃施用するが、生育状況に応じて適時施用する。			基準量より多く入れる場合、基肥量を調整する。						
ウ 土壌ECが0.5mS/cm以上の場合、基肥を減らすか、場合によっては除塩対策を講じる。									
エ 品種及び連作等栽培条件により、施肥量を加減する。									

<露地栽培 8月咲き(9月咲き)>

対象地域 (土壌)	定植本数	目標収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他	備 考
	本/10a	本/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10		kg/10a	
全域 (砂壤土～壤土)	12,000	30,000	基肥：定植前	12～13	16～18	14～16	(稲わら堆肥2,000) 基準：2 上限：3	苦土石灰 100	
	～ 14,000		追肥：伸長期	2	2	2			
	合 計			14～15	18～20	16～18			
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 土壌pHは6.0～6.5を目標に、定植3～4週間前に堆肥等土壌改良資材を施し耕耘する。			堆肥は稲わら又はもみがらを原材料にした完熟堆肥を用いる。						
イ 追肥は新芽が10～15cm伸びた頃施用するが、生育状況に応じて適時施用する。			基準量より多く入れる場合、基肥量を調整する。						
ウ 土壌ECが0.5mS/cm以上の場合、基肥を減らすか、場合によっては除塩対策を講じる。									
エ 品種及び連作等栽培条件により、施肥量を加減する。									

小 ギ ク

<露地栽培>

対象地域 (土壌)	定植本数	目標収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他	備 考
	本/10a	本/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a		kg/10a	
全域 (壤土、粘土)	12,000	28,000	基肥：定植前	13～14	13～14	12～13	(稲わら堆肥2,000) 基準：2 上限：3	苦土石灰100	
	～ 14,000		追肥：伸長期	3	2	3			
	合 計			16～17	15～16	15～16			
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 土壌pHは6.0～6.5を目標に、定植3～4週間前に堆肥等土壌改良資材を施し耕耘する。			堆肥は稲わら又はもみがらを原材料にした完熟堆肥を用いる。						
イ 追肥は新芽が10～15cm伸びた頃施用するが、生育状況に応じて適時施用する。			基準量より多く入れる場合は、基肥量を調整する。						
ウ 土壌ECが0.5mS/cm以上の場合、基肥を減らすか、場合によっては除塩対策を講じる。									
エ 品種及び連作等栽培条件により、施肥量を加減する。									

スプレーギク

<周年栽培>

対象地域 (土壌)	定植本数	目標収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他	備 考
	本/10a	本/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a		kg/10a	
全域 (砂壤土～壇壤土)	20,000	39,000	基肥：定植前	7～12	7～12	7～12	(稲わら堆肥2,000) 基準：2 上限：3	苦土石灰100	
	～ 24,000		追肥：伸長期	3～7	3～7	3～7			
	合 計			10～19	10～19	10～19			
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 夏期は追肥主体に少な目とし、冬期は基肥主体にやや多めに施肥する。			堆肥は稲わら又はもみがらを原材料にした完熟堆肥を用いる。						
イ 追肥は液肥で施用する。			基準量より多く入れる場合は、基肥量を調整する。						
ウ 土壌pHは6.0～6.5に調整する。									

リンドウ

<半促成栽培、露地栽培>

対象地域 (土壌)	定植本数	目標収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他	備 考
	本/10a	本/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a		kg/10a	
全域 (全土壌)	1年目	30,000	基肥：定植前	11	15～20	15～20	(稲わら堆肥3,000) 基準：3 上限：3		
	6,000		合 計	11	15～20	15～20			
	2年目以降		追肥：生育期	5～10	5～10	5～10			
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 施肥前に土壌診断を必ず行い、土壌pHは5.0～5.5に調整する。			ア 完熟堆肥を施用する。						
イ 定植20日前には施肥し、肥料を土に十分馴染ませておく。			イ 定植前に施用する。						
ウ 生育状況に応じてながら必要量の追肥を行う。									
エ 早生種は、8月頃に追肥を行い、中・晩生種は収穫後に行う。									

宿根カスミソウ

対象地域 (土壌)	定植本数 本/10a	目標収量 本/10a	施用時期	窒素 kg/10a	リン酸 kg/10a	カリ kg/10a	堆肥(種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備考
全域	秋切り栽培 2,200	主茎仕立て 8,800 多茎仕立て 15,400	基肥：定植前14日	12~13	15	15	(稲わら堆肥1,500) 基準：1.5 上限：3	苦土石灰 100	基肥12のとき追肥は2 基肥13のとき追肥は1とする。
			追肥：花芽分化期まで	1~2	1~2	1~2			
	据え置き株		合計	13~15	16~17	16~17			
			追肥：花芽分化期まで	1~2	1~2	1~2			
			合計	1~2	1~2	1~2			
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 土壌pHは6.5~7.0を目標に調整する。			堆肥の使用料は稲わら又はもみがらを原材料とした完熟たい肥を用いる。基準量より多く入れる場合、基肥量を調整する。						
イ 追肥は、生育に応じて行う。									

トルコギキョウ

<春播き秋切り栽培、秋播き無加温栽培、秋播き加温栽培>

対象地域 (土壌)	定植本数 本/10a	目標収量 本/10a	施用時期	窒素 kg/10a	リン酸 kg/10a	カリ kg/10a	堆肥(種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備考
全域 (砂壤土、埴壤土)	28,000	25,000	基肥：定植前	8~12	8~12	8~12	(稲わら堆肥1,000) 基準：1 上限：2	苦土石灰100	追肥は、生育に応じて判断する。追肥を行う場合は、葉色を見ながら早めに行う。
			追肥	(0~3)	(0~4)	(0~4)			
			合計	8~12 (8~15)	8~12 (8~16)	8~12 (8~16)			
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 土壌pHを6.5~7.0に調整する。			ア 完熟堆肥を施用し、ほ場全体にムラ無く均一に散布する。						
イ 肥効調節型肥料を施用する。			イ 堆肥を施用する場合、多量に施用すると青かび根腐病を発病することがあるので注意する。						
ウ 土壌診断に基づいて、施肥量や堆肥の施用量を調整する。			ウ 前作で堆肥を施用した場合は、施用しない。						
エ 品種により、施肥量を調整する。									

ストック

<年内切り>

対象地域 (土壌)	定植本数 本/10a	目標収量 本/10a	施用時期	窒素 kg/10a	リン酸 kg/10a	カリ kg/10a	堆肥(種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備考
全域 (全土壌)	40,000	30,000	基肥：定植前	10~15	15~20	15~20	(稲わら堆肥2,000) 基準：2 上限：3		土壌診断の結果に基づいて苦土石灰を施用する。
			追肥：定植約1ヶ月後	0.5~1.5	0.5~1.5	0.5~1.5			
			合計	11~17	16~22	16~22			
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 土壌pHは6.0~6.5を目標に、定植2週間前に堆肥等土壌改良資材を投入し、耕耘する。			前作で堆肥を施用した場合は、施用しない。						
イ 土壌ECが0.5mS/cm以下の場合には基準量を施用し、0.5~1.0mS/cmの時は基準量の30~50%に減量し、1.0~1.5mS/cm以上なら無肥料とし、1.5mS/cm以上では除塩対策をする。									

ハイブリッドカラー

<夏秋切り>

対象地域 (土壌)	定植本数 本/10a	目標収量 本/10a	施用時期	窒素 kg/10a	リン酸 kg/10a	カリ kg/10a	堆肥(種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備考
全域 (全土壌)	8,000	15,000	基肥：定植前	3~8	12	10	(稲わら堆肥1,000) 基準：1 上限：2	苦土石灰100	
			合計	3~8	12	10			
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 土壌pHは6.0~6.5を目標に、定植3~4週間前に苦土石灰等の土壌改良資材を施し、耕耘する。			ア 未熟な有機物を多投入すると軟腐病の発生を助長するので、完熟堆肥を施用する。						
イ 窒素肥料が多すぎると、軟弱徒長し、栽培中に球根腐敗を多くするため、施肥量は少なめが望ましい。			イ 前作で堆肥を施用した場合は、施用しない。						

シンテツポウユリ

＜露地栽培＞

対象地域 (土壌)	定植本数	目標収量	施用時期	窒素 kg/10a	リン酸 kg/10a	カリ kg/10a	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
全城 (植壤土)	1年目 24,000	24,000	基肥：定植前	15	25	15	(稲わら堆肥2,000) 基準：2 上限：3	苦土石灰100	
			追肥：6月上旬～中旬	5	5	5			
			追肥：7月上旬～中旬	5	5	5			
	合 計	25	35	25					
2年目 (据え置き)			追肥：3月中旬～4月上旬	5	5	5			
			追肥：5月中旬	5	5	5			
			合 計	10	10	10			
環境保全型施肥のポイント							＜堆肥等施用のポイント＞		
ア 土壌pHは6.0～6.5を目標に、定植3～4週間前に堆肥等土壌改良資材を施し、活着を良くするよう砕土を十分に作る。 イ 窒素過多で葉枯病を多発するので窒素は抑え気味とする。 ウ 葉色が淡い場合には、適宜液肥の葉面散布を行う。							堆肥は稲わら又はもみがらを原材料にした完熟堆肥を施用する。		

ハイブリッド・スターチス

＜夏秋切り＞

対象地域 (土壌)	定植本数	目標収量	施用時期	窒素 kg/10a	リン酸 kg/10a	カリ kg/10a	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
全城 (砂壤土)	1年目 2,100	16,800	基肥：4～5月	10～13	15～20	15～20	(稲わら堆肥2,000) 基準：2 上限：2	苦土石灰100	
			追肥	1	1	1			
			合 計	11～14	16～21	16～21			
	2年目以降			追肥：萌芽前	10	15			
			追肥：生育期	1	1	1			
			合 計	11	16	11			
環境保全型施肥のポイント							＜堆肥等施用のポイント＞		
ア 土壌pHは6.0～6.5に調整する。 イ 3年以上据え置き栽培を行うので、定植時の土壌改良を十分に行う。 ウ 作土を深くし、耕土が浅い場合は畝を高くし、根張りを良くする。 エ 窒素が多いと軟弱になり、品質低下するので、できるだけ控える。							堆肥は稲わら又はもみがらを原材料にした完熟堆肥を施用する。		

ヒマワリ

＜施設栽培、露地栽培＞

対象地域 (土壌)	定植本数	目標収量	施用時期	窒素 kg/10a	リン酸 kg/10a	カリ kg/10a	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
全城 (全土壌)	40,000	40,000	基肥	0	0	0	(稲わら堆肥2,000) 基準：2 上限：3	石灰 150	
			追肥：生育期	1	1	1			
			合 計	1	1	1			
環境保全型施肥のポイント							＜堆肥等施用のポイント＞		
ア 土壌pH6.0～6.5を目安とする。 イ 比較的どんな土地にも生育するが、腐植質に富む粘土質土壌が適する。 ウ 基本的に無肥料とするが、生育中は葉色を見ながら、鮮緑色を保つ程度に追肥する。 窒素肥料が多いと茎が太く、花が大きくなり品質が低下するので控えるようする。 エ 生育に応じて追肥を行う際、液肥などを過剰に施肥しないこと。							窒素過多を防ぐため家畜ふんの含まれていない稲わら堆肥など、養分が少ないものを施用する。		

ダリア

＜露地栽培＞

対象地域 (土壌)	定植本数	目標収量	施用時期	窒素 kg/10a	リン酸 kg/10a	カリ kg/10	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
全城	1,200	24,000	基肥：定植前	10	10	10	(稲わら牛糞堆肥2,000) 基準：2 上限：2		
			追肥：採花後(1番花)	1	1	1			
			追肥：採花後(2番花)	1	1	1			
			追肥：採花後(3番花)	1	1	1			
			合 計	13	13	13			
環境保全型施肥のポイント							＜堆肥等施用のポイント＞		
ア 土壌pHは6.0～6.5を目標に調整する。 イ 収穫時期が長期間となるため、基肥は即効性のものより、有機質肥料や肥効調節型肥料を施用する。							定植1か月前に、完熟堆肥を施用する。		

ヒガンザクラ

<露地栽培>

対象地域 (土壌)	定植本数 本/10a	目標収量 本/10a	施用時期	窒素 kg/10a	リン酸 kg/10a	カリ kg/10a	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備考
全域 (壤土、粘土)	1年目 50	3,500	基肥：定植前	12	18	14	(稲わら堆肥1,000) 基肥：1 上限：2		
			合計	12	18	14			
	2年目以降		追肥：1月下旬まで	12	18	14			
			追肥：収穫終了後	6	8	3			
合計	18	26	17						
環境保全型施肥のポイント			ア 2年目以降は、1月下旬までに施肥を行う。 イ 収穫年は化成肥料は施用しない。			<堆肥等施用のポイント> ア 定植時に植え穴を掘り堆肥を投入し、間土を入れてから植え付ける。 イ 2年目以降又は収穫年は収穫終了後に株元に鶏ふんを施用する。			

ユキヤナギ

<株入れ促成栽培>

対象地域 (土壌)	定植本数 本/10a	目標収量 本/10a	施用時期	窒素 kg/10a	リン酸 kg/10a	カリ kg/10a	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備考
(壤土)	600	1,600	基肥：3月	16	36	12	(稲わら堆肥1,000) 基準：1 上限：2	石灰 100	
			追肥：5～6月	6	4	5			
			合計	22	40	17			
環境保全型施肥のポイント			ア 1～3月には土壌改良資材や基肥を施用し、耕耘する。 イ 肥効が遅くまで続くと落葉しにくくなるので、追肥は6月中旬までに終了し、9月頃には肥効が切れるようにする。			<堆肥等施用のポイント> 窒素過多を防ぐため、家畜糞尿の含まれていない稲わら堆肥を使用するのが望ましい。			

シクラメン

<秋冬出荷>

対象地域 (土壌)	栽培様式 鉢/m ²	目標収量 鉢/10a	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥	その他	備考	
中通り 浜通り	5	5,000	生育前半	基肥 鉢用土	0.7g	3.2g	0.7g			鉢用土の肥料成分は1㎡当たりの成分とする。
			追肥 2～6月	20～25ppm	20～25ppm	20～25ppm				
			追肥 7月	50～100ppm	50～100ppm	50～100ppm				
			生育後半	基肥 鉢用土	0.7g	3.2g	0.7g			
追肥 8月	50～100ppm	50～100ppm	50～100ppm							
追肥 9～11月	100～200ppm	100～200ppm	100～200ppm							
合計										
環境保全型施肥のポイント			・ 追肥は20～20の液肥を使用し 生育に応じて使用する			<堆肥等施用のポイント> ・ 肥土として稲わらをサンドイッチ状に積み、堆肥を直接用土に混用することはない。				

ウメ

<枝切り促成栽培>

対象地域 (土壌)	定植本数 本/10a	目標収量 本/10a	施用時期	窒素 kg/10a	リン酸 kg/10a	カリ kg/10a	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備考
全域 (壤土、粘土)	1年目 40	3,500	基肥：定植前	12	18	14	(稲わら堆肥1,000) 基準：1 上限：2		
			合計	12	18	14			
	2年目以降		追肥：1月中旬まで	12	18	14			
			追肥：収穫終了後	6	8	3			
合計	18	26	17						
環境保全型施肥のポイント			2年目以降又は収穫年は、収穫終了後に株元に鶏ふんを施用する。			<堆肥等施用のポイント> 定植時に植え穴を掘り堆肥を投入し、間土を入れてから植え付ける。			

ハナモモ

<枝切り促成栽培>

対象地域 (土壌)	定植本数 本/10a	目標収量 本/10a	施用時期	窒素 kg/10a	リン酸 kg/10a	カリ kg/10a	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
全域 (壤土、粘土)	1年目 50	500	基肥：定植前	12	18	14	(稲わら堆肥2,000) 基準：2 上限：3		
			合 計	12	18	14			
	2年目以降 養成年		追肥：1月中甸まで	12	18	14			
			追肥：6月 9月	2	2	2			
	2年目以降 収穫年		追肥：1月中甸まで	12	18	14			
			追肥：6月 9月	2	2	2			
環境保全型施肥のポイント			合 計	16	22	18	<堆肥等施用のポイント> 定植時に植え穴を掘り堆肥を投入し、間土を入れてから 植え付けする。		
6、9月の追肥は樹勢により判断し実施する。									

シクラメン

<秋冬出荷>

対象地域 (土壌)	栽培様式 鉢/m ²	目標収量 鉢/10a	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥	その他	備 考	
全域	5 (6号鉢)	5,000	生育前半	基肥 鉢用土	0.7g	3.2g	0.7g			鉢用土の肥料成分は1%当たりの成分とする。
			追肥 2~6月	20~25ppm	20~25ppm	20~25ppm				
			追肥 7月	50~100ppm	50~100ppm	50~100ppm				
			生育後半	基肥 鉢用土	0.7g	3.2g	0.7g			
			追肥 8月	50~100ppm	50~100ppm	50~100ppm				
			追肥 9~11月	100~200ppm	100~200ppm	100~200ppm				
環境保全型施肥のポイント			合 計				<堆肥等施用のポイント>			
追肥は20-20-20の液肥を使用し 生育に応じて使用する										